東日本大震災 被災者支援
北海道民医連ニュース

2011.4.6

第５次支援隊２０人活動開始

第５次支援隊２０人は、坂病院１０人／宮城野の里２人／大船渡市８人に分かれて、昨日から本格的なとりくみを開始しました。（第５次は、１０日まで活動する予定です）

全国からの支援

★累計　１，５１９人に
（４月５日当日は１８２人）

★募金総額　９７００万円を超えました。

坂病院チーム

坂病院のある塩釜市は、幹線道路の付近は一見被害が少ないように見えましたが、沿岸部に近づくにつれて、床上浸水となった一般家屋の付近に、積み上げられた畳、家具などの家財が目立つようになりました。こうした状況でも、住民の方々は声をかけあって、整理にあたっていたのが印象的でした。沿岸部の状況は想像していた以上に悲惨で広範囲にわたるものです。また、津波で流されてきた泥が乾いて粉塵がひどくなっています。

夕方の全体ミーティングでは、長町病院のカルテ１０万冊が津波で流されてしまっていて、行政から回収命令が出ていることが報告されていました。また、近隣の避難所では、学校の再開に伴い、避難所の統合が行われ、１０００人規模の大規模避難所が生まれていること、そうした避難所でノロウィルスの疑いが出ていることが報告されていました。

（十勝勤医協　宮田哲郎さん）

大船渡市チーム

大船渡でも塩釜市同様に、粉塵が目立っています。避難所内では、避難生活が長引く中、子どもたちが落ち着かなくなっていて、些細なことがあらそいがおきやすくなっています。一方、前支援隊が始めた体操は好評です。

昨日は、午前中に気にかかる家庭の訪問と、高齢者施設の往診を実施しました。後の入地区にある小規模多機能施設＋グループホームは、避難所よりかなり良い環境が保たれていて、震災の影響を受けた他施設の高齢者も受け入れています。ただ、元の施設の資料がなくなっていて、認知症の方など既往歴があると思われても情報がない状況でした。施設側から「週1回ほどで往診してくれると助かる」との申し出があり、当面、対応することとにしました。

山の方には、自宅に戻っている人も多くいます。家が損壊していて、ライフラインも復旧していない中で、在宅療養している方もいます。地域住民から「山の上の方に、埋もれている患者もいる」との情報も寄せられたので、今後、地域の戸別訪問を強化していきたいと考えています。

（北海道勤医協　桜井亨弘さん）

当面、北海道からの支援は
「大船渡市　８人　／　宮城野の里　２人」を基本に

２日緊急に開催された全日本民医連理事会の確認を経て、当面北海道からの支援は、下記が基本となりました。

①岩手県大船渡市の避難所・周辺地域への支援　８人（医師２／看護３／介護２／事務１）
②宮城野の里（仙台市・高齢者施設）の「福祉避難所」への支援　２人（介護２）
③薬剤師・放射線技師は、全国の分担の中で引き続き派遣していく（坂病院及びつばさ薬局）
④「６泊７日」を基本とします

ただ、原発被害に苦しむ福島県を含めた支援対象の拡大、岩手県への支援拡大も検討されています。今後も変更がありますので、ご注意下さい。